第４回大阪府医師会
「メディカルカフェ」

今回は和菓子を食べながら意見交換

大阪府民の方と直接意見を交わす貴重な機会として、大阪府医師会では「メディカルカフェ」を実施しています。第４回となる今回は２月 17 日に開催し、府民 41 人が参加されました。会議室を即席の「カフェ」にアレンジ。本会役員等と府民が「人生の最終段階で受けたい医療」などについて意見を交わしました。

加納副会長　（左）と米田先生

開会のあいさつで加納康至先生（府医副会長）は「超高齢社会に入った日本では、健康寿命を延ばすための対策が重要」と指摘し、メディカルカフェを通して、「長くなった人生を楽しく過ごすためのヒントを探ってもらいたい」と語りかけました。

引き続き、米田円先生（大阪市北区医師会理事）が「町医者、笑い療法士として活動する～和（にこ）やかに暮らすために」と題して講演を行いました。「笑い療法士の活動は、落語や漫才のように人を笑わせるのではなく、笑いを引き出し、笑いにより患者の自己治癒力を高めるサポートをすることが役割である」と述べられました。また、医療の現場での「ほめる」ことの必要性について言及し、「すごい」「さすが」「すばらしい」の３Ｓを念頭に、小さなことにも「ありがとう」と感謝を伝えることが大切であると強調されました。

講演後、６テーブルに分かれ、軽食を楽しみながらグループトークを行いました。『100 歳まで生きたいか』という項目では、回答のあった 35 人のうち、「生きたいと思う」が８人、「思わない」が 17 人、「想像できない」が 10 人でした。その後、人生の最終段階になったと仮定し、「医療や介護を受けたい場所」「どのような治療を望むか」などの意見交換を進めました。最後に、各テーブルから「在宅医療は家族が居てはじめて成立することから、若年世代に向けた施策の展開が必要」「ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）の普及が課題」――などの意見が挙がりました。

広報担当役員の阪本栄理事が
カフェのマスターを務める

大阪府医師会では、今後も興味深い話題を取り上げ、対話を重視した「双方向性の広報活動」を進めていきたいと考えています。大阪府医師会の活動にご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（報告：大阪府医師会広報担当理事　阪本　栄）